

ワクチンの感染抑止効果をもっと報道すべき！

- 日曜日 - 30 1 月 2022

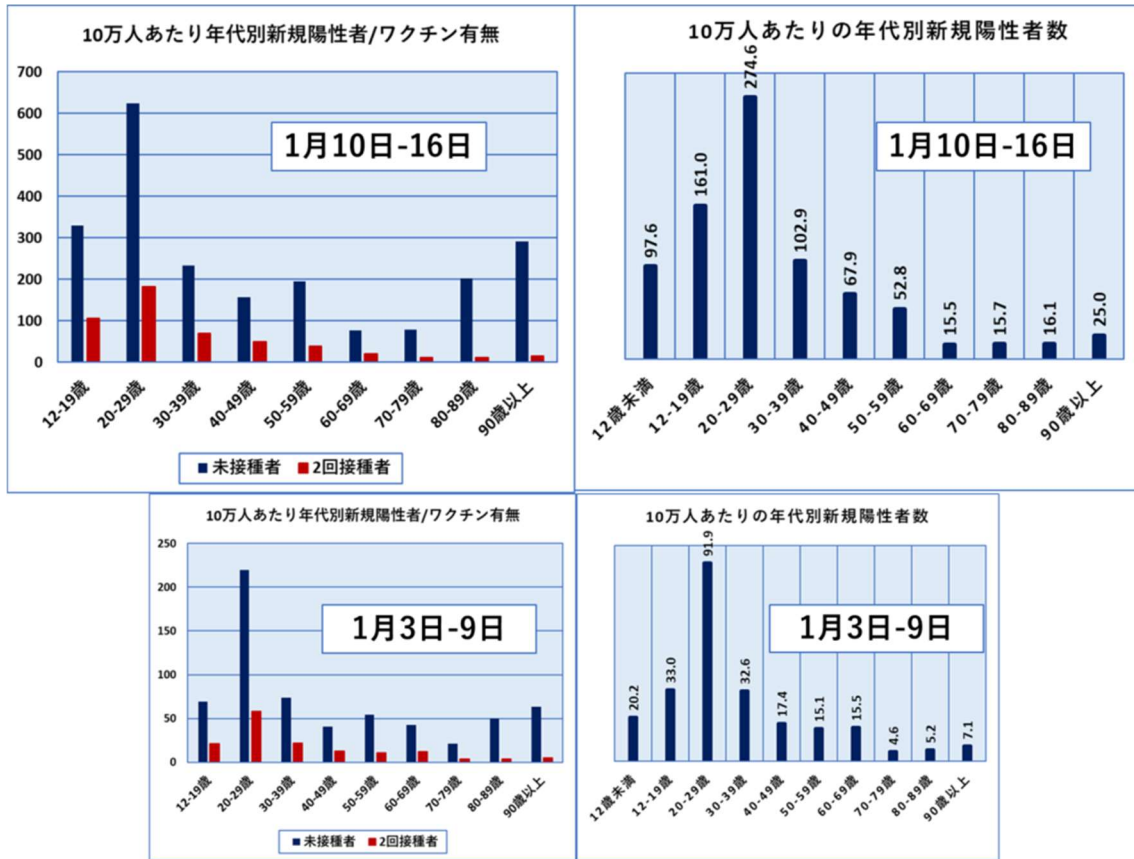
先週に引き続き、首相官邸ホームページにワクチンの接種回数別の感染者数情報が掲載されていました。前回は1月3日から1月9日までの1週間でしたが、今回は1月10日から16日までの1週間の新規感染者数に関するデータです。結論から言えば、今回の発表データは前回の結果とほぼ同じ傾向を示しています。つまり、2回接種における感染抑止効果は、まだかなり認められると言えます。実際のデータをご覧ください。

ワクチン接種歴別の新規陽性者数（1/10-1/16）

	未接種			2回目接種済み			接種歴不明
	新規陽性者数 (1/10-1/16の合計)	未接種者数 (1/16時点)	10万人あたりの新規陽性者数	新規陽性者数 (1/10-1/16の合計)	2回目接種者数 (1/16時点)	10万人あたりの新規陽性者数	新規陽性者数 (1/10-1/16の合計)
0-11歳	11,736	12,027,309	97.6				
12-19歳	7,204	2,182,492	330.1	7,112	6,708,648	106.0	3,072
20-29歳	16,464	2,640,711	623.5	18,369	10,043,648	182.9	7,066
30-39歳	6,768	2,908,779	232.7	7,898	11,347,185	69.6	3,082
40-49歳	4,784	3,057,244	156.5	7,679	15,264,414	50.3	2,803
50-59歳	3,000	1,539,884	194.8	5,841	15,199,223	38.4	1,942
60-64歳	758	681,510	111.2	1,712	6,708,459	25.5	499
65-69歳	470	896,578	52.4	1,251	7,182,440	17.4	354
70-79歳	747	946,126	79.0	1,791	15,235,955	11.8	583
80-89歳	472	233,203	202.4	979	8,782,811	11.1	367
90歳以上	225	77,048	292.0	366	2,288,832	16.0	132

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>

前回同様、まずこの表からまず1月10日から16日までの新規陽性者の年代別、ワクチン歴別に新規陽性者(10万人あたり)を図に示します。右は表の数値そのままにワクチン歴別に新規陽性者数を表したもの、左はそれを合算してワクチン歴を合算し年代別の陽性者数として表したものです。下段の小さなグラフは前回の掲載分です。



年代別、ワクチン接種歴別傾向は、全体に感染者数が大きく増加しているもののそれぞれのグラフの下に示した前回の結果と全く変わりません。年代別にみるとワクチン歴に関わらず、20-29歳の年代が突出して多いのは同じです。他のどの年代よりも、ワクチンの有無に関係なく突出して多いことが明らかです。

左の図も同様に20代が突出して多いことを表していますが、この図を作成した目的は前回も述べたように12歳未満の感染が他の年代に比べて多いのか少ないのかを確認したかったことでしたが、結果は同じでした。幼児(12歳未満)の感染が増えているとは言え、1月中旬までの時点では他の年代に比べて決して多くはなく、ほぼ40代~60代並みというのが結論です。

次にワクチンによる感染抑制率を示します。

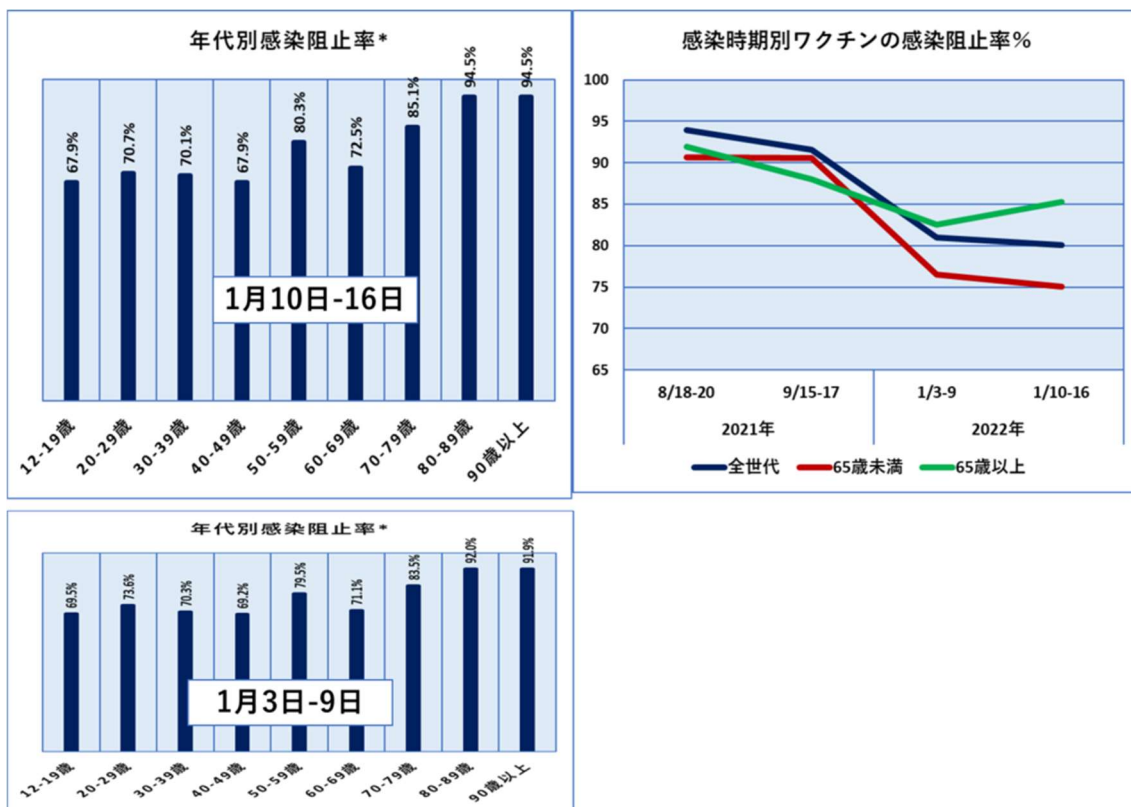
ワクチン接種状況と10万人あたり新規陽性者数 (1/3-1/9)

年代	10万人あたりの新規陽性者		感染阻止率*
	未接種者	2回接種者	
12-19歳	330.1	106	67.9%
20-29歳	623.5	182.9	70.7%
30-39歳	232.7	69.6	70.1%
40-49歳	156.5	50.3	67.9%
50-59歳	194.8	38.4	80.3%
60-69歳	77.8	21.4	72.5%
70-79歳	79.0	11.8	85.1%
80-89歳	202.4	11.1	94.5%
90歳以上	292.0	16.0	94.5%

*感染阻止率 = (未接種者感染率-接種者感染率) / 未接種者感染率

感染時期と2回接種者の感染阻止率

年代	2021年		2022年	
	8/18-20	9/15-17	1/3-9	1/10-16
全世代	93.9	91.6	81.0	80.1
65歳未満	90.7	90.6	76.5	75.1
65歳以上	91.9	88.0	82.5	85.3



ここでも右のグラフで示した年代別の傾向は下に示した前回のグラフと変わっていません。高齢者の方が感染阻止率が高いという結果でした。これに対する考察は前回の通り、感染阻止率は単なる抗体の数だけでは決まらず、行動によっても変わりうるのでは？ということです。

それにしても感染阻止率はこの時点でも全体としては80%ほどあります。これは一般に考えられている以上に高い数字ではないでしょうか？左の図では、8月、9月時点での感染阻止率からの推移を示していますが、確かに阻止率は落ちてはいるものの、マスコミなどで伝えられる抗体数の減少ほどの激変はしていないと言えます。そもそも、日本人へのオミクロン株の感染に関して、これほどの数のワクチンの感染阻止率のデータが示されたことがあったのでしょうか？もちろん、遺伝子解析がすべて行われているわけではないので、感染者すべてがオミクロン株による感染とは仮定できないにしても、大変に意味のあるデータではないでしょうか？

素人考えかもしれませんが、大事なことは抗体数の多寡ではなく、実際の感染阻止率であると思われます。こうしたワクチン接種履歴別の感染阻止率データをもっと広めるべきではないでしょうか？ワクチンによる阻止率が高いから安全対策を緩和して良いなどとは決して言いませんが、正しく恐れるためには、正しい現状認識が必要です。今朝のテレビ番組で、現在全国でECMOを使用している重症者は5名であるとの情報がありました。マスコミも行政も、流れる情報は事態の重大さを強調する方へ偏っているようにも感じます。もっとこうしたデータにも光を当てるべきだと考えます。